

企画展「松木満史展」

平成29年5月26日(金) ～ 平成29年6月25日(日)

主催：青森県立郷土館

時間：9時～18時

共催：東奥日報社

料金：一般 310円 高校・大学生 150円

※中学生以下無料

松木満史(1906(明治39)～1971(昭和46)年)は、青森県木造町(現つがる市木造)出身の洋画家です。本名を金七といい、地元の桶屋の長男として生まれました。当初は彫刻に関心を持ち、高等小学校を中退して青森市の仏師のもとに弟子入りします。しかし好奇心旺盛な彼は、次第に当時まだ目新しかった油絵に魅了されていきます。奉公の合間に古本屋に通っては、技法書を読み漁りました。やがて油絵の道具を手に入れた彼は、棟方志功と出会い、芸術の道を目指して互いに切磋琢磨しながら少年時代を過ごします。

松木を本格的に洋画へと導いたのは、文芸雑誌『白樺』でした。武者小路実篤らが創刊した『白樺』は、ゴッホやロダンなどヨーロッパの最新の美術を日本に紹介していました。彼は地元木造の文化サークル「土曜会」に参加してこの雑誌に触れ、とりわけフランスの美術に憧れます。

画家になるために19歳で上京した松木は、各種公募展に作品を発表して着実に実績を重ねていきます。このころの作風は、『白樺』に参加していた岸田劉生の影響を受けた、暗く厚みのあるものでした。やがて画家としての新たな地平を求めた彼は、美術教員をしていた玉川学園を辞め、1937(昭和12)年に憧れのフランスへと旅立ちます。

現地の画塾に通うこととなった松木は、裸婦デッサンに没頭しました。また、印象派などの実作品を見て、鮮やかな色彩へと眼を開かれていきます。第二次世界大戦の開戦によって1年半という短期間で帰国することになりましたが、この滞在経験は彼の作風を大きく変えました。その後従軍画家を経て、松木は再び青森に戻ります。市内の堤川沿いにアトリエを建て、試行錯誤を重ねて独自の表現を確立していきました。

青森から洋画の道を志し、フランスに渡った彼が行き着いた絵画とは、どのようなものだったのでしょうか。本展覧会では、フランスへの渡航中

に描いたスケッチなど60点の作品を展示し、海を渡った松木の足跡を辿ります。この機会に彼が旅した色彩の世界をご鑑賞ください。

(研究員 和山大輔)



松木満史作「ラリュース」(1961年)

企画展 昭和家電パラダイス

11月18日（金）から開催された企画展「昭和家電パラダイス」では、主に昭和30年代の家電250点を展示しました。期間中は、当時を知るご年配の方から、小さなお子様まで、多数のご来館者で賑わい、笑顔と歓声であふれました。幅広い年代に、それぞれの楽しみ方で受け容れられたことを嬉しく思います。

ご来場の方々から、多くのご感想をお寄せいただきました。その中から、特に若い世代の方々の感想を幾つかご紹介させていただきます。

——「平成生まれの自分から見ると新鮮なおもしろかったです」（平成11年生、むつ市）。「初めて見るものばかりでした。今売っていてもおかしくない物もあり、すばらしいアイデアだと思いました。来てよかったです！」（平成4年生、青森市）。「今より便利だと思うものもありました。家族の会話がなくなった」（平成15年生、青森市）。「昭和の家電はどれもモダンでかっこいいなと思いました。こけライトもかわいかったです」（平成16年生、青森市）。「お父さんが『なつかしい、なつかしい』といっぱい言っていて面白かったです。昭和の生活もいいなあ～と思いました」（平成17年生、黒石市）。

昭和の家電といっても、レトロやノスタルジー

ではなく、道具としてのユニークさや面白さを伝えたいという思いがありました。今回の展示が、若い方々の新鮮な驚きや発見につながったことは、まさに意に適ったりと嬉しい限りです。ご来場下さいました皆様をはじめ、開催へのご協力をいただきました関係各位に対し厚く御礼を申し上げます。

（学芸員 増田公寧）



昭和家電の展示を楽しむ子どもたち

冬休みづくりまわし大会

平成29年1月8日（日）、毎年恒例になっている「冬休みこどもの国～づくり回し大会」を開催しました。第1回は平成16年1月で、その後13年続いている大会です。県外からも申し込みがあり、児童・生徒、保護者も含め64名の方が集まり、熱戦を繰り上げました。

「づくり」とは、津軽地方を中心とした伝統的な「こま」のことです。この「づくり」には指で回す軸はついていません。ずんぐりむっくりしたこまを「縄」を使って回します。（当大会ではロープを使用）

一般的に「づくり」は「ずんぐり」と表記されていますが、当大会では「づくり」としています。昔は独楽（こま）のことを「こまつぶり」や「つむくり」とよんでいました。現在では「こまつぶり」の略称として「こま」が全国的に定着しています。しかし、津軽地方では、「こまつぶり」の「つぶり」や「つむくり」が変化し、「づくり」となったとされています。そこで、由来にちなみ当大会では「づくり」としています。なお、木地をくりぬく「地繰り」、形が頭に見える「頭繰り」という説もあるそうです。

大会には「低学年の部」「高学年（中学生含む）の部」の2つがあり、入賞者（各部1～3位）には賞状・賞品を、その他の参加者には記録証を用意しています。しかし、「低学年の部」に幼児の参加者もいることから「幼児の部」として賞状

を、保護者の方が参加する「一般の部」にも賞状を用意しています。今年は大会新記録が出ませんが、好記録がたくさん生まれました。

ちなみに「ずんぐりむっくり」の「ずんぐり」は「つむくり」からきているという説もあるようです。

（主任学芸主査 豊田雅彦）



大会の様子

トピック展示 東北地方初 ムカシマンモス化石

当館が所蔵するゾウの臼歯化石について、ムカシマンモスのものであることが明らかになったことから、これを紹介するトピック展示「東北地方初 ムカシマンモス化石」（1月17日～31日）を当館エントランスホールで開催しました。

この化石は、平成17年5月に当館に寄贈され、ナウマンゾウとして常設展で展示してきましたが、X線CT装置を使用して内部構造を調べるなどした結果、新たにムカシマンモスであることがわかりました。ムカシマンモスは、およそ110万年前に大陸から日本列島に渡ってきて、70万年前に絶滅したと考えられているゾウです。北海道から沖縄まで日本各地で化石が見つっていますが、どんな姿をしていたのか詳しいことはわかっていません。東北地方で化石が確認されたのはこれが初めてで、本県に生息していた古生物として新たに1種「ムカシマンモス」が加わりました。

会期中、多くの方々に本展示をご覧いただいたほか、ムカシマンモスを含む氷河時代のほ乳類について紹介した土曜セミナーも大変盛況でした。

(学芸主幹 島口天)



ムカシマンモス臼歯化石



展示の様子

ハバロフスク地方郷土博物館・青森県立郷土館連携写真展 「博物館の静物写真」

当館とロシア連邦ハバロフスク地方郷土博物館は、平成5年から博物館交流を行ってきました。平成7年および同9年には、それぞれの博物館で、両館のあらましを紹介する展示会が開催されました。平成10年からは、両館が連携して、主に蝶類の比較研究、考古遺物の研究、少数民族調査などの共同研究が開始され、それらの調査成果は論文としてまとめられています。

さらに平成25年には、ハバロフスク地方郷土博物館から写真展の開催が提案され、平成26年には、ハバロフスク地方郷土博物館で当館の資料による「縄文時代」展を開催し、当館では、ハバロフスク地方郷土博物館による北方民族「エヴェン人」の生活を紹介します。今年度秋には、ハバロフスク地方郷土博物館において、当館が提供した写真を活用した「青森県の鳥類-対馬隆コレクション-」が開催されました。

本連携展では、ハバロフスク地方郷土博物館が収蔵する、鋳物、漁具、民族衣装、装飾品、信仰具、仏像、玩具、近代の工業製品等の多様な資料について、芸術写真家チュットリナ・スヴェトラナ氏が撮影した静物写真を、青森県立郷土館エントランスホールにて紹介しました。同地域固有の風土と暮らしへの理解を深めていただけたと思います。貴重な写真を提供いただいたハバロフスク地方郷土博物館をはじめ、両館の連絡調整にご尽力いただきました県観光国際戦略局誘客交流課等の関係各位に心からお礼申し上げます。

(主任学芸主査 小山隆秀)



西欧諸国の茶器など
(ハバロフスク地方郷土博物館蔵)



ニヴフ人の黒テン狩りの道具
(同館蔵)

休館日の様子 研修&防災訓練

郷土館では、企画展や特別展の開幕前と閉幕後に一日ずつ休館日を設けています。この休館日には「展示会の準備や片づけ」「解説員の研修」

「防災訓練」「設備点検」等が行われております。

「解説員の研修」では、展示会の内容を来館されたお客様にわかりやすく解説できるようにするための勉強会をしております。また、年に数回、県内の観光施設を視察研修することで、他施設の活動やお客様サービスを学ばせていただいております。今年度は五所川原市の立佞武多の館、斜陽館、津軽三味線会館に行き、郷土理解を深めるとともに解説スキルの向上に励んでおりました。

その他にも、休館日には災害や緊急時の訓練も行っております。館内にはAED（自動体外式除細動器）が設置されており、緊急の場面でも職員が冷静な判断や対応ができるよう使用方法の確認等を行っております。

このように、郷土館は休館日を利用した様々な活動をしており、今後もお客様に安心してご観覧いただけるよう努めてまいります。

(広報担当 櫻庭友輔)



立佞武多の館での研修



AEDの使用方法を学ぶ解説員

平成29年度 年間行事予定

4月28日(金)～5月14日(日)

TTHAグループ主催 「石澤桐雨萬葉千首展」

5月26日(金)～6月25日(日)

企画展 「松木満史展」

7月8日(土)～8月27日(日)

TTHAグループ主催 「神の手 ニッポン展」

◇休館日◇

○4/27、5/15・25、6/26
7/7

○8/28～3/31（長期休館）

◇開館時間◇

○4/1～4/26
9:00～17:00

○4/28～8/27
9:00～18:00

工事に伴う長期休館のお知らせ

青森県立郷土館は、館内収蔵庫の改修工事のため

平成29年7月24日（月）～平成29年8月27日（日） 特別展のみ営業

平成29年8月28日（月）～平成30年3月31日（土） 全館休館

とさせていただきます、平成30年4月1日の営業再開を予定しております。

展示を楽しみにされているお客様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

